

## 第7回 阪南市総合計画審議会

日時：令和3年10月5日（火） 10：00～12：00

場所：阪南市役所別棟1階 第2会議室

### ◆基本構想

- ・基本目標4-1は、「就学前施設」の方へ、文言を揃える方がよい。
- ・子育て世代包括支援センターの要素を新たに加える必要がある。
- ・阪南市の特色・経営面をあわせて、どのように進めていくのか。近隣だけでなく、将来の国・府の施策をみながら、柔軟に対応する必要がある。

### ◆基本計画

#### 2-3

- ・NPO との協働事業の実績を入れてはどうか。また、子どもが健全に育つ環境のために必要な、マイノリティの視点が不足しているのではないか。

#### 2-6

- ・ひきこもりへの支援について、実績があれば、入れておいた方がよいのでは。また、現状維持の取組が多いように見受けられる。

#### 3-3・3-6

- ・公共下水道事業が進んでおらず、今後の進め方もわからない。

#### 4-1

- ・めざす姿に子ども権利条例への言及があるものの、取組の中に入れていないのに違和感がある。また、子ども権利条例の学ぶ場などを創出するなどの工夫がほしい
- ・大人が子育てを学ぶなど、新しい姿を想像して施策を作っていくことが重要。現状は現在の取組の延長で構成されているように感じる。親同士が繋がっていくことは、地域では重要で、孤立や親同士のサポートなどのため、保護者がつながれる居場所をつくるなどが必要なのでは。

#### 4-2

- ・スクールソーシャルワーカーの文言を追加する必要があるのでは。
- ・めざす姿に、不登校児の受け入れ充実の文言を入れてほしい。受入施設があふれていて、岸和田などの他市へ行っている実態がある。
- ・教員の資質向上について言及があるが、教員のメンタルケアは重要。また、先生任せになって負担が増えすぎているのが課題だと感じており、地域の手を借りながら、教育を形作る、「エプロン先生」などの取組をしてはどうかと思っている。

#### 4-3

- ・子どもの居場所について、コンビ二前などでたむろしている子どもたちとの関わり方

も重要。今は、ただそこで話しているだけだが、今後非行の温床とならないように、それとなくケアする体制は必要ではないか。

#### 4 - 6

- ・幼児期から中学校まで一貫した人権教育や、幼児期からプライベートゾーンなどの性教育が必要だと思う。他市で実施しているように、外部の専門講師を招いて、学校で教えてはどうか。

#### 第5章

- ・にぎわいと交流の創出が肝だと思う。新しいビジネスにつながる取り組みはあるか。給食センターによる配食サービスなどはどうか。

#### 5 - 2

- ・事業や出店の相談ができる相手がない。相談体制を充実させることで、市と事業者相互メリットがある状況を作っていくことができるのでは。

#### 5 - 5

- ・中学生アンケートの結果がどのように反映されているのかがわかりにくい。雇用就労支援の充実に対する、取組がわかりにくい。また、他の施策を確認しても、課題の解決に至れそうな内容がないように思う。
- ・自己表現等が行えない子どもが多いことから、中学生からキャリア教育を行うことが望ましいと思われる。漁業関係以外にも、様々な職業人との交流など、地域と連携したキャリア教育を用意し、「知る機会」を増やすことが重要。
- ・にぎわいづくりのための財源を確保できるのか。

#### ◆委員長

- ・子育てや、親同士がつながりについて、プラットフォームビルダーの考え方を、全施策を総括して1 - 2に追加してはどうか。
- ・尼崎市のように、教員の負担軽減のため、学校教育の働き方改革を入れる選択肢もある。
- ・4 - 2については、資質向上、教育活動の指標は学力テスト指標の設定があるが、生きる力の要素に適合する指標がないので、指標の設定が必要。自ら決断していける、生きる力のある子どもとなっていく形が理想の姿では。
- ・地域課題の解決やソーシャルビジネスについて、地域の方々と連携やパートナーを育てていく体制について記載ができるとよい。
- ・市全体がダイナミックに変わる仕掛けが必要だと思われる。